

「令和6年度 全国学力・学習状況調査の結果」について

【富里市 中学校】

令和6年4月18日（木）に、小学校第6学年全児童、中学校第3学年全生徒を対象として、「全国学力・学習状況調査」が実施されました。本市の中学校の結果についてお知らせします。

1 生徒が受けた調査について

「国語」、「数学」「生徒に対する質問紙調査」の調査が実施されました。それぞれの内容は下記のとおりです。

教科に関する調査

- （１）①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※出題範囲：原則として調査する学年の前学年までに含まれる指導事項

質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査

＊調査問題は「国立教育政策研究所」のHPで閲覧できます。

<http://www.nier.go.jp/24chousa/24chousa.htm>

2 本市生徒の調査結果

本市生徒の調査結果及び分析は以下のとおりです。

（１）教科の正答率について　〔※ 全国公立中学校の平均正答率（以下全国平均）との比較〕

国　語	学習指導要領に示されている〔知識及び技能〕、〔思考力、判断力、表現力等〕の内容に基づき、全体を視野に入れながら中心的に取り上げるものを精選して出題	C
数　学	学習指導要領における、「数と式」、「図形」、「関数」、「データの活用」の各領域に示された指導内容からバランスよく出題	C

☆ 全国平均正答率との比較について

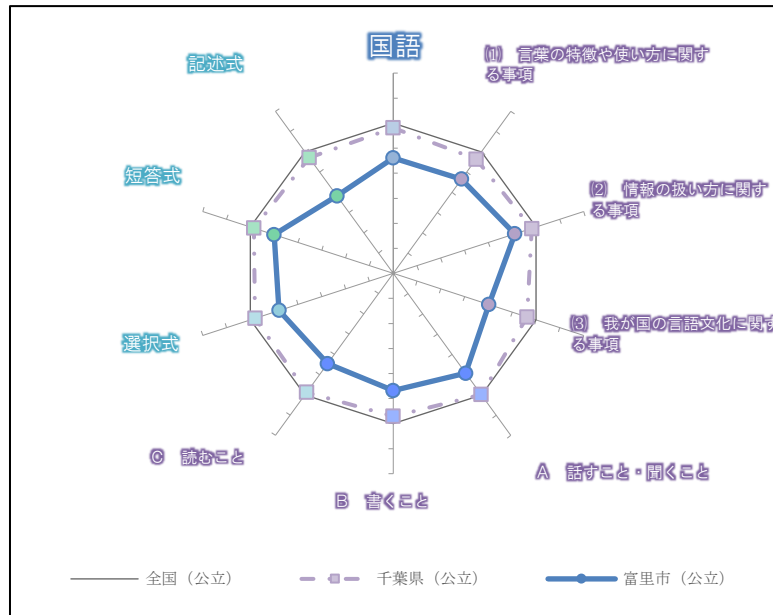
A：＋5.0％より上回っている場合「良好」

B：＋5.0％～－5.0の場合「ほぼ同じ」

C：－5.0％より下回っている場合「要改善」

(2) 教科ごとの分析

国 語



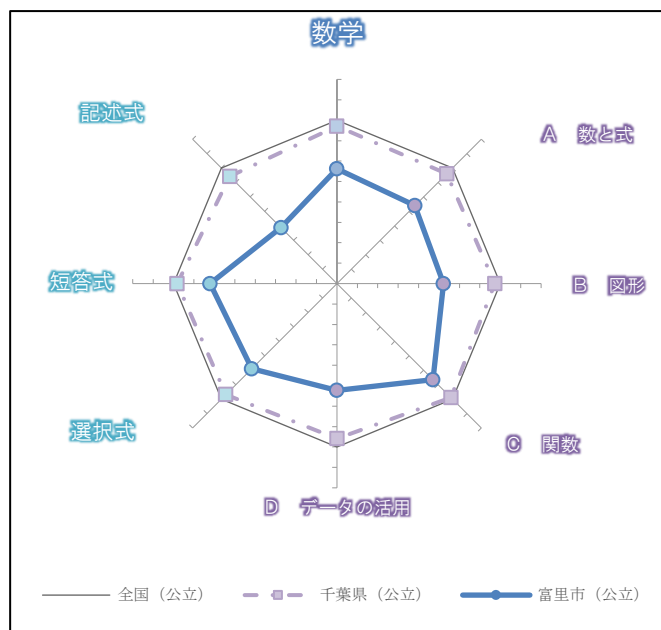
【特徴と現状】

- 「記述式」の問題について、正答率が昨年度よりも大幅に下がっています。
- 知識及び技能の「情報の扱い方に關する事項」の正答率が、県平均や全国平均と比べ差がありましたが、令和4年度から令和6年度の3年間で見ると、全国の平均正答率に近づいています。
- 「話すこと・聞くこと」の区分で出題された、「話し合いの話題や発言を踏まえ、これからどのように本を選びたいか」について自分の考えを書く問題の無解答率が全国平均や県平均を大幅に上回っていました。話し合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめることに課題があると言えます。

【改善方策等】

- 記述式問題に慣れることができるように、定期テストや日々の授業で短文の記述問題に取り組む機会を増やします。また、「部分点」を意識した採点を行い、解答への自信が持てるようにします。
- 記述式問題の回答例を共有し、他の生徒の意見を参考にする活動を取り入れます。また、授業内で生徒自身に解答を見直させ、「どこが改善できるか」を考える時間を設けるようにします。
- 図書館やインターネットを使い、正しい情報を見つけて整理する練習を行い、批判的思考力を養うことを目指します。
- デジタル教材を活用し、グラフやデータから情報を読み取る機会を増やします。また、プレゼンテーション形式の活動を導入し、情報を整理し相手に伝えるスキルが高められるようにします。
- 小グループでの話し合いを授業に組み込み、意見の発表や他者の意見への対応に慣れさせます。また、話し合いの進行役や記録役を交代で担当させ、協働する意識が高められる機会を作ります。
- 「相手の意見を要約する」「〇〇さんの意見に賛成/反対する理由」を伝える練習を取り入れ、話し合いの後で、意見を振り返りながら自分の考えを整理して書く機会を設けます。

数 学



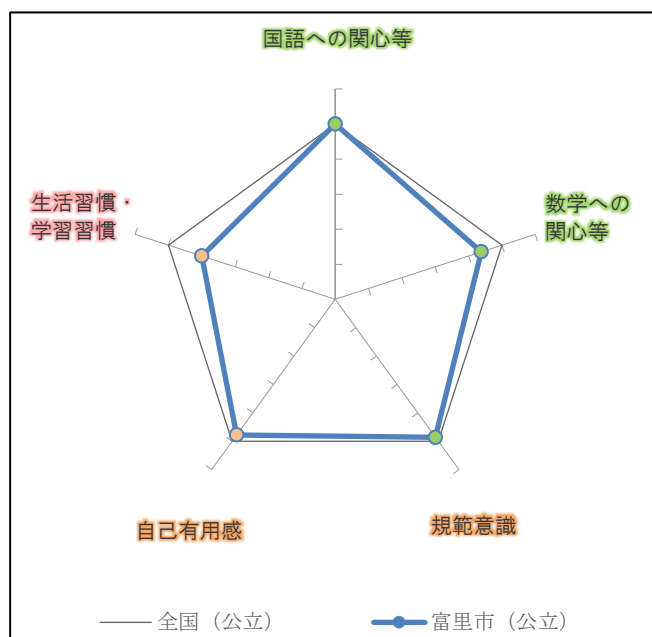
【特徴と現状】

- 数学科全体の正答率が、全国平均と比較して下回っています。
- 全国平均や県平均と特に差が大きかった「データの活用」区分で出題された問題に解答できるように、複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する活動を今以上に授業内で行っていく必要があります。
- 「図形」の正答率が全国平均や県平均を下回っていましたが、昨年度よりも全国平均や県平均に近づいています。
- 「知識・技能」の「 $6x + 2y = 1$ を y について解く」の正答率が全国平均や県平均を大きく下回っていました。1・2年で既習した知識内容の定着が不十分だったことが原因だと思われるので、継続した復習を行っていく必要があります。

【改善方策等】

- 反復練習や小テストを定期的 to 実施し、基本問題を確実に解ける力を育成します。また、個別指導や少人数グループでの活動の機会を増やし学習内容の確実な定着を図ります。
- 実際の生活に即したテーマを用いてデータを集め分析する活動を取り入れるなどして、グラフの特徴を捉え、複数のデータの分布を比較する演習を行い、読み取る力や説明する力の定着を図ります。また、生徒同士で解答例を発表し、互いにフィードバックを行う場を設け、論理的な説明力を高めます。
- 授業において実物の模型やICT教材を用いて図形の性質を生徒が視覚的に理解できるようにします。また、生徒が図形を正しく理解できるよう、基礎的な用語や定理の理解を確認する小テストを定期的に行い、確実な定着を図ります。
- 「知識・技能」の「数と式」の領域については、昨年度より内容を刷新した「とみの国検定」を継続して行い、数学科における知識・技能の確実な習得に努めます。

(3) 生徒に対する質問紙調査の結果及び分析



【特徴と現状】

- 「1、2年生のときの学習の中で PC・タブレットなどの ICT 機器を活用することについて、友達と考えを共有したり比べたりしやすくなりましたか」の質問に対して、約 80%が「とてもそう思う、そう思う」と回答していました。授業における有効なタブレット活用方法が浸透してきている結果だと思われるので、引き続き情報共有や各校での積極的な活用を促していく必要があります。
- 「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」の質問に対して、約 60%が「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答していました。全生徒がいつでも相談できる環境になるように何らかの手立てを講じる必要があります。

3 まとめ

どの教科においても、引き続き「記述式」の問題に正答することに課題が見られます。経年の結果を見ますと年度によって正答率に差が見られるので、どの教科の授業においても理由や根拠を基に相手へ伝えることを目標にした上で、グループで考えを共有し、それぞれの意見を取り入れて自分の答えをブラッシュアップする活動や、他者の意見を活用して自分の考えを深める機会を意図的に作る必要があります。また、学びを下支えする力の確実な定着を図るために、年間を通して「とみの国検定」や各授業における既習事項の復習を行います。生徒質問調査の「朝食を毎日食べていますか」の質問に対して、経年の結果を見ますと食べていない生徒は減少傾向ですが、食育指導を通して、生徒が自主的に朝食の重要性を理解できる機会を設け、家庭への継続したアプローチを行っていく必要があります。また、生徒が困りごとや不安がある時に先生や学校にいる大人にいつでも確実に相談できる体制が整うように、各校において学級担任や学年職員、スクールカウンセラーが生徒と日常的に関わり信頼関係を築く時間を増やしたり、日々のホームルームや学級活動で「相談の大切さ」を伝えたりすることを実践し、相談しやすい雰囲気づくりに努めます。

子どもたちが心身ともに健やかに成長するためには、学校だけでなく、家庭との連携が何よりも大切です。家庭と学校が協力し合うことで、子どもたちの未来への可能性をより一層広げることができます。今後につきましても、家庭と学校がそれぞれの役割を果たし、子どもたちの学力向上を図っていくことが求められます。引き続き、各御家庭での御支援・御協力をよろしくお願いいたします。